ロールレタリングによる看護学生教育への試験的実践 (6)

○大石 武信¹

(1T-time 心理ラボ)

キーワード：ロールレタリング，看護学生，共起ネットワーク

Experimental practice to nursing student education by the roll lettering. (6)

Takenobu OHISHI¹

(1T-time Psychology Laboratory)

Key Words: Role lettering, Nursing student, Collocation Network

目 的

春口 (1984) が考案したロールレタリング (Role Lettering: 以下 RL) は，看護教育場面での対人関係スキル向上のための手段として利用され，その有効性が指摘されている (e.g. 下村，2007；關戸，2007)。

Ohishi (2016) は，一往復の RL においても同様の効果が得られるかを検証し，大石 (2015) などの複数回の往復を行った先行研究と同様に春口 (2007) が指摘する「文章による感情の明確化」「自己カウンセリングの作用」「カタルシス作用」に相当する効果を確認した。

そこで今回は，看護学生にとって大きなイベントとなる初実習の前後において RL を実施し，その効果を検討することを目的とした。

方 法

◎調査対象者：埼玉県内の A 看護専門学校に在学する看護学生 43 名 (男 6 名，女 37 名)。書面による同意を得た 43 名全員分 (平均年齢 23.4±5.5 歳) のデータを発表する。

◎調査期間：2017 年 1 月及び 2 月の講義中に実施した。

◎実施方法：基礎看護実習前に 1 回目の「看護師になろうとしている自分」から「看護師になった自分へ」という役割で手紙を書いてもらった。記入後手紙を回収した。2 週間の実習終了後の講義時にその手紙を返却し，今度は「看護師になった自分」から「看護師になろうとしている自分へ」という役割で返信を書いてもらった。その後，「看護師になろうとしている自分」，「看護師になった自分」，「ロールレタリングを体験して感じたこと」について自由記述してもらった。また，「ロールレタリング振り返り票」(福島，2005) の評価をしてもらった。

結 果

◎自由記述：KH Corder (樋口，2014) を使用して，RL 体験して感じたことについての自由記述の内容を Ward 法による階層的スラスタ分析を行った。その結果，「看護師」，「客観的」，「今の自分」，「不安」などの項目の関連性が強かった。その抽出された項目を共起ネットワークにて図示した (Figure 1)。

◎ロールレタリング振り返り票：評定値の高かった項目について，高かった 3 項目について表記した (Table 1)。一方，評定値の低かった項目についても低かった 3 項目についても表記した (Table 2)。

Table 1 評定平均の高かった 3 項目

質問項目	Mean	SD
自分のことは自分で責任を取らなければという気持ちになった	5.26	1.43
自分のやりたいことや不安などいろいろ気づいた	5.07	1.40
素直な自分が出せた	4.91	1.09

Table 2 評定平均が低かった 3 項目

質問項目	Mean	SD
自分の良い面に気づいた	3.07	1.16
いつもの自分と違う自分が発見できた	3.16	1.07
リラックスした気分になった	3.35	1.27

考 察

振り返り票の評価の高い項目については，実習を通じて改めて看護師を目指そうという元来自分が目指していた原点を考えるきっかけになったためと思われる。

評価の低い項目については，初めての实習で準備段階でも実習中でも教員や指導者からの厳しい指導を体験したことから自己効力感が低下したためと考えられる。

RL 体験に関する記述については，春口 (2007) の指摘する臨床的效果のうち，「文章による感情の明確化」や「自己カウンセリングの作用」に関連が強い語が抽出されたと考える。

以上のことから，看護実習前後に RL を実施することは，看護学生が自己を振り返るきっかけとなり，原点回帰によるモチベーションを上げることにも効果があると思われる。これからも更なる RL の実施を行い，その効果を検討する必要があると考える。

引用文献

春口徳雄 (2007) ロールレタリングの技法とは 松岡洋一・小林剛 (編) 現代のエスプリ 482 ロールレタリング (役割交換書簡法) pp. 30-42.

Figure 1. ロールレタリング体験自由記述の共起ネットワーク